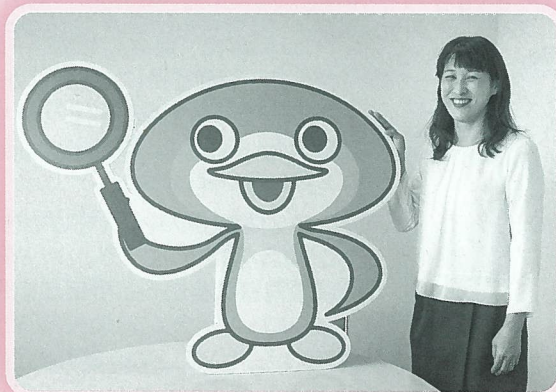


富山県民共生センター

サンフォルテだより

vol.
130
2024.1

富山の煌めく女性たち



Index

- 特集 富山の煌めく女性たち…………… 2~3
- 煌めく女性リーダー塾より…………… 4
- 私らしい働き方の提案…………… 5
- DV等防止啓発講座講演要旨…………… 6
- サンフォルテトピックス…………… 7
- 講座募集案内…………… 8

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに被災されたすべての方々にお見舞い申し上げます

富山の煌めく女性たち

富山でいろいろな形で働く女性たちにスポットをあて、「富山で働くこと」や「ウェルビーイング」など4つの質問に答えていただきました。

家城 裕子さん (医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑 事務部長)



- A1 2009年に上司の薦めで「ビジネスリーダー養成セミナー」を第2期生として受講したのがきっかけです。異業種の女性リーダーとの交流はとても刺激的でした。最終の講座で元IBMの内永ゆか子さんと直接話をする機会があり、感激したことを覚えています。
- A2 東京で生活していた時に、静岡県出身の友人から「富山の人はすごい」と言われたことがありました。当時はあまりピンと来ませんでした。富山でじっくり働いてみると、富山県人の勤勉さや粘り強さにあらためて感心します。
- A3 富山の女性のネットワークを活かして、今後ますます深刻化する少子高齢化社会の課題に何らかの形で関わられるような仕組みを作りたいと考えています。
- A4 自分にとってのロールモデルを探すことが重要です。私は「ビジネスリーダー養成セミナー」を受講して、内永ゆか子さんというロールモデルに出会うことができました。このような幸運な偶然(セレンディピティ)に出会うために、いつも好奇心をもって前向きにチャレンジしていくことが大切だと感じています。

家城裕子さんプロフィール

1990年北陸銀行へ入行。本部や東京の支店で通算22年間勤務し、結婚を機に退職。2012年医療法人財団五省会へ入職。夫の転勤に伴い富山を離れ、2017年に長野市でデイサービスを開業。2019年に富山へ戻り、介護老人保健施設みどり苑勤務となる。2023年4月より現職。

Q1
ご自身とサンフォルテのかかわりを教えてください。

荒木 和さん (株式会社アイベック取締役兼総務部部长)



- A1 2013年に「煌めく女性リーダー塾」1期生として参加しました。当時部長になったばかりで、会社にはロールモデルがおらず相談できる人もいない中、約1年間、仕事、家事、育児をしながら、塾での学びはとても大変でしたが有意義なものになりました。
- A2 長い間富山で共働きをしてきた中で、私が大切にしてきたことは、気負わないで、少しできないことを自らつくり、家族や同僚に相談し、手伝ってもらいながら進めることでした。また、「イクメン」の夫の協力により、「お茶の稽古」に通って自分ひとりだけの時間を作るようにしています。仕事とプライベートの両方が大切です。自分を丁寧に扱ってあげることで、周りの人を丁寧に扱うことにつながると気づきました。
- A3 健康でいきいきとやりがいをもって仕事ができる環境を社員とつくり、一人ひとりが自己成長し、社員や会社、お客様の未来を明るくするために、下記の3つの行動目標をたてました。
目標1 2026年3月までに、社員全員の時間外所定労働時間を、一人当たり月20時間未満とする。
目標2 社員のワーク・ライフバランスを確保のため、2028年3月までに、週休2日制(年間休日126日)にする。
目標3: 2026年3月までに、技術職の女性を1名から2名以上にすると。
この目標を達成するために、日々努力していきたいと思っています。
- A4 「女性」が活躍するには、男女問わず誰もが活躍できる場が必要です。互いの人権を尊重し、責任を分かち合い、性別にかかわらず、各自の個性や能力を十分に発揮することが重要です。会社や時間の都合もありますが、様々な勉強会、セミナー、会合、展示会に積極的に参加してみてもいいでしょうか。教育の機会とキャリアの成長は、女性が自己実現できるチャンスです。

荒木 和さんプロフィール

短大を卒業後、建設会社の営業事務、ソフトウェア会社でプログラマー・SEを経験し、結婚を機に富山検査(現 アイベック)に入社。経理部配属時に会社で初めての産休、育休を取得。産後は、時間短縮制度を利用し、グループ会社の新システム構築、本社に戻り、営業部、総務部に配属され、システム構築をスタート。係長時に第2子出産し、その後、総務部課長に就任し、初の女性管理職に。2018年に役員就任。

飯野 裕子さん (フルフィル代表)



- A1 2年前富山へ帰郷し、コロナ禍で活動しなくても思うように動けない中、サンフォルテの「女性のためのチャレンジ起業セミナー」や「働く女性のためのセミナー」を受講し、メンバーから「どんどんイベントや集まりに顔を出して、人脈を作ろう!」と提案され、思いきり背中を押されました。その後も「モヤモヤしていてもしょうがない、サンフォルテへ相談に行こう!」とチャレンジ支援相談室を訪ねて、富山よろず支援拠点を紹介され、起業のきっかけをもらいました。
- A2 私の事業は、人様のおうちに行き住まい環境を整えたり、家事代行をしたりすることです。世の中、特にメディアなどでは断捨離とか不用品を処分してスッキリしようと耳にしますが、家が広い富山には必ずしも合致しませんし、実際の潜在的な要望は、別なことだと実感しました。そこで、私は、「捨てる片付け」ではなく、生活を楽に便利にするために「片付け整えること」を提案しています。
- A3 親世代には、未永く楽に便利に暮らせる安心安全な環境を、子世代には親の価値観を共有する機会や精神的経済的負担を軽くする、整理収納や片付けの提案をしていきたいです。また、実家が富山で、都会や遠方で暮らす子世代の方々に、離れていても安心できる環境作りやサポートの仕組みを作りたいです。
- A4 自分軸を持つこと、ささやかでも、ワクワクする気持ちや好奇心を大切に日々過ごしていきたいです。富山県は「睡眠満足度」が4年連続、全国ワースト1位です。特に働く世代の女性の睡眠満足度が低いです。県全体で女性も男性も今一度、当たり前と思っている生活習慣や家事労働負担の中味を見直すことが重要と考えます。

飯野裕子さんプロフィール

高校卒業後、富山から東京に移り、社会人生活を送る。インテリアデザイン事務所、イタリア食材輸入商社、インテリア商品企画会社などさまざまな仕事を経験し、富山に帰郷。「起業したい」との想いで、暮らしに関わる仕事と考え、大手家事代行会社にパート勤務し、住宅の掃除スキルを身につけ、整理収納アドバイザー、実家片づけアドバイザーの資格取得を経て、2022年5月フルフィル開業。

Q3
これからどんなことにチャレンジしていきたいですか?

Q4
あなたにとって「女性」が「ウェルビーイングする」には、どんなことが重要だと思いますか?

松田 悠さん (株式会社Asian Bridge取締役/一般社団法人TENKIN LAB会長) 理事



- A1 富山へUターンして帰ってきた際、働き方や仕事と子育ての両立を自分自身も考えるようになり、また自らもキャリア支援をしている立場から、サンフォルテで行われていた「産休・育休のための職場復帰準備講座」に参加しました。講師が話された内容は、女性のキャリア支援に大切で必要なことばかりで、社会課題解決のため、今自分がやっている事業の成長につながりました。
- A2 地域が元気になり、課題が解決されるように働くことです。私が富山に帰ってきて、そのように働く中で、地域や社会に恩返しができると思っています。また、現在3世帯で同居をしており、家族の温かさのもとで働くことのできる幸せを感じています。子どもたちとも幸せを共有しながら日々過ごしていきたいと考えております。
- A3 IT会社「株Asian Bridge」はアプリやシステムを作り、サービスを生み出せる会社です。実際に今はインターンシップマッチングサービス「キャリアターン」を作っています。女性のセカンドキャリアのマッチングなど、みんなをつなげられる、みんながよかったなと思っていただける仕組みをITを通して作っていく存在でありたいと思っています。
- A4 私自身はそもそも「女性」という属性をあまり意識していません。ただ今までの人生を振り返ると、男性の中に女性が1人という状況で生きてきたことが多かったようにも感じます。女性が女性という属性に縛られずに、生きていけるようになるといいなと思います。女性活躍なんて当たり前の世界になるといいですね。時間は有限なので、自分が生まれてきたことの価値を大切に。

松田 悠さんプロフィール

射水市出身。高校での地域活動を経て社会課題解決と人やまちへの貢献を生涯のミッションととらえ、石川県立大学で都市計画を、富山大学でITを学び、大手小売業に総合職入社。のちNPOで働き、フリーへ転身。その後、北陸へ戻り、富山県とやま起業未来塾にて最優秀賞を受賞し自分の経験を活かし「転勤妻の就労支援」の仕組みを一般社団法人TENKIN LABとして事業化。金沢大学の客員研究員を経て、株Asian Bridgeに入社し転勤妻も含む社会人のインターンシップ(就業体験)マッチングができるサービス「キャリアターン」など作り、社会課題解決と新規事業を構築することを得意とする。